

授業科目名	家族社会学		担当教員	佐藤 麻衣	科目ナンバリング LE126
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：講義15時間		

【授業概要】

わが国の家族は、少子・高齢化が進むなかで、育児不安、非行少年問題、離婚の増加などに直面しているだけでなく、高齢者のケアや寝たきり老人の介護など、多数の問題を抱えている。一方、看護職の地域や在宅における役割は拡大しており、家族社会学や家族心理学の知識が要求されている。家族を家族社会的視点から考察し、主に家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス理論に注目し、家族の構造や機能、家族の環境、家族内の人間関係、家族変化の発生、家族のストレスに対する反応などについて考察する。

【達成目標】

1. 人間生活の基盤としての家族を社会的視点から考察し理解する。
2. 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス理論の主な内容が説明できる。
3. 家族の構造と機能、人間関係、発達段階、家族変化の発生、家族のストレス反応などの概念を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 家族とは何か ー 家族の定義、世帯と家族、家族類型 ー
- [02] 今の家族と昔の家族 ー 前近代から近代への移行と家族の変化 ー
- [03] 現代家族の抱える問題(1) ー 「結婚難」 ー
- [04] 現代家族の抱える問題(2) ー 性別役割分業、賃金労働・家事・育児 ー
- [05] 現代家族の抱える問題(3) ー 育児不安と児童虐待 ー
- [06] 現代家族の抱える問題(4) ー 家族介護と介護の担い手 ー
- [07] さまざまな家族のありよう ー 離婚とひとり親家庭、事実婚、同性婚 ー
- [08] 家族をめぐる諸理論 ー 家族システム論・家族ストレス理論を中心に ー

【教科書】

特定のものを使用しない。

【参考書】

参考図書は各授業回に数冊ずつ紹介する。

家族社会学および家族理論の全体像の理解には、以下の文献が適している。

- (1) 森岡清美・望月嵩(1997)『新しい家族社会学 四訂版』培風館
- (2) 野々山久也・清水浩昭編著(2001)『家族社会学の分析視角 社会的アプローチの応用と課題』ミネルヴァ書房

【評価方法・評価基準】

筆記試験(100%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

家族に関連するニュースが報道されない日はない。日々の生活の中で、新聞やニュースなどに目を向け、現在の家族が人々にとってどのようなものとして捉えられているのかを感じ、その問題性について考えることこそがもっとも有益な事前・事後学習となる。

また、各授業回において、授業内容をより深く理解するための文献を数冊ずつ紹介する。事後学習として毎回、その中から1冊を選び、読んでおくこと。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内に求める意見や感想へのフィードバックは、その後の授業のなかで行う。

【備考】

本科目は1年前期に開講される選択科目「社会学」と関連が深く、「社会学」は「家族社会学」の基礎をなす科目である。そのため、可能な限り「社会学」の履修を勧める。